

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-06-0002_改0
提出年月日	2021年6月15日

工事計画に係る説明資料

放射性廃棄物の廃棄施設のうち

液体廃棄物処理系 (5.2.2.1 放射性ドレン移送系)

(本文)

2021年 6月

東北電力株式会社

申請範囲

- 5. 放射性廃棄物の廃棄施設
 - 5.2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備
 - 5.2.2 液体廃棄物処理系
 - 5.2.2.1 放射性ドレン移送系
 - (9) 主要弁
 - (10) 主配管

5.2.2 液体廃棄物処理系
 5.2.2.1 放射性ドレン移送系
 (9) 主要弁

			変更前	変更後
名		称*1	K11-F003*2	変更なし
種	類	—	止め弁	
最高使用圧力		MPa	0.98*3	
最高使用温度		℃	171*3	
主要寸法	呼び径*4	—	80A*5	
	弁箱厚さ	mm	<input type="text"/> 以上*3	
	弁ふた厚さ	mm	<input type="text"/> 以上*3	
材料	弁箱	—	SCPH2	
	弁ふた	—	SCPH2	
駆動方法		—	電気作動	
個数		—	1	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	*3 K11-F003 放射性ドレン移送系	
	設置床	—	*6 原子炉格納容器内 O.P. 1.15m	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—		

- 注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。
 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。
 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「80」と記載。記載内容は、設計図書による。
 *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器内」と記載。記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称 ^{*1}			K11-F004 ^{*2}	変更なし
種 類	—		止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.98 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		171 ^{*3}	
主 要 寸 法	呼 び 径 ^{*4}	—	80A ^{*5}	
	弁 箱 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	
	弁 ふ た	—	SCPH2	
駆 動 方 法		—	電気作動	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	^{*3} K11-F004 放射性ドレン移送系	
	設 置 床	—	^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004」と記載。記載内容は、設計図書による。

*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「80」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称 ^{*1}			K11-F103 ^{*2}	変更なし
種 類	—		止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.98 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		171 ^{*3}	
主 要 寸 法	呼 び 径 ^{*4}	—	65A ^{*5}	
	弁 箱 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
材 料	弁 箱	—	SCS16A	
	弁 ふ た	—	SCS16A	
駆 動 方 法		—	電気作動	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	^{*3} K11-F103 放射性ドレン移送系	
	設 置 床	—	^{*6} 原子炉格納容器内 O.P. 1.15m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F103」と記載。記載内容は、設計図書による。

*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「65」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器内」と記載。記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称 ^{*1}			K11-F104 ^{*2}	変更なし
種 類	—		止め弁	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.98 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		171 ^{*3}	
主 要 寸 法	呼 び 径 ^{*4}	—	65A ^{*5}	
	弁 箱 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	<input type="text"/> 以上 ^{*3}	
材 料	弁 箱	—	SCS16A	
	弁 ふ た	—	SCS16A	
駆 動 方 法		—	電気作動	
個 数		—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	^{*3} K11-F104 放射性ドレン移送系	
	設 置 床	—	^{*6} 原子炉建屋 O.P. -8.10m	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F104」と記載。記載内容は、設計図書による。

*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「65」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

(10) 主配管

変更前						変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ*2 (mm)	材料		
放射性下レン移送系	*3 ドライウェル機器ドレンサンプポンプ ～ K11-F003	0.98*4	95	60.5	(5.5)	STPT370 *5	放射性下レン移送系					変更なし	
				76.3	(5.2)	STPT38							
	*3 K11-F003 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-51)	0.98*4	171	89.1	(5.5)	STS42							変更なし
	*3 K11-F004 ～ 廃液収集槽入口収集管	0.98*4	66	89.1	(5.5)	STPT38							変更なし
				76.3	(5.2)	STPT38							
				76.3	(5.2)	SUS304TP							
	*6 ドライウェル床ドレンサンプポンプ ～ K11-F103	0.98*4	66	60.5	(3.9)	SUS304TP							変更なし
				76.3	(5.2)	SUS304TP							
	*6 K11-F104 ～ ドライウェル機器ドレンサンプポンプ出口配管合流点	0.98*4	66	76.3	(5.2)	SUS304TP							変更なし
				76.3	(5.2)	STPT38							
	原子炉建屋原子炉棟機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集槽入口収集管	0.98*4	95	60.5	(5.5)	STPT370 *5							変更なし
			66	76.3	(5.2)	STPT38 STPT370 *5							
	原子炉建屋廃棄物処理区域機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集槽入口収集管	0.98*4	66	60.5	(5.5)	STPT38							変更なし
				76.3	(5.2)	STPT38 STPT370 *5							
タービン建屋機器ドレンサンプポンプ ～ 廃液収集槽入口収集管	0.98*4	66	60.5	(5.5)	STPT38 STPT370 *5	変更なし							
			76.3	(5.2)	STPT38 STPT370 *5								

変 更 前							変 更 後					
名 称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	名 称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ*2 (mm)	材 料	
放射性ドレン移送系	原子炉建屋原子炉棟床ドレン サンプポンプ ～ 床ドレン・化学廃液収集タンク 入口収集管(床ドレン用)	0.98*4	66	60.5	(3.9)	SUS304TP	放射性ドレン移送系	変更なし				
	76.3			(5.2)	SUS304TP							
	原子炉建屋廃棄物処理区域高 電導度ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン・化学廃液収集タンク 入口収集管(化学廃液用)	0.98*4	66	60.5	(3.9)	SUS316LTP		変更なし				
	76.3			(5.2)	SUS316LTP							
	タービン建屋高電導度ドレン サンプポンプ ～ 床ドレン・化学廃液収集タンク 入口収集管(化学廃液用)	0.98*4	66	60.5	(3.9)	SUS316LTP		変更なし				
	76.3			(5.2)	SUS316LTP							
	タービン建屋床ドレンサンプ ポンプ ～ 床ドレン・化学廃液収集タンク 入口収集管(床ドレン用)	0.98*4	66	60.5	(3.9)	SUS304TP		変更なし				
	76.3			(5.2)	SUS304TP							

注記*1 : 外径は公称値を示す。

*2 : ()内は公称値を示す。

*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル機器ドレンサンプポンプから廃液収集槽入口収集管まで(ドライウェル機器ドレンサンプポンプ出口配管)」と記載。

*4 : S I 単位に換算したものである。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT38」と記載。

*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル床ドレンサンプポンプからドライウェル機器ドレンサンプポンプ出口配管まで」と記載。